

財団法人国際文化交友会 月光天文台 ～北西に霊峰・富士を望んで～

漆 畑 充

〈月光天文台 〒419-0101 静岡県田方郡函南町桑原 1308-222〉

e-mail: hayabusa@gekkou.or.jp

財団法人国際文化交友会 月光天文台（以下、月光天文台）は、人類初の人工衛星・スプートニクが地球を周回したのと同じ、1957年設立の公開天文台です。

設立当時は沼津市香貫山に置かれ、アマチュア育成と天文普及でよく知られていた天文学者の山本一清博士（1889.5.27-1959.1.16）も、月光天文台創立期の台長を務めています。

1973年7月から現在の函南町桑原に移転し、1975年3月より開館して現在に至っております。

月光天文台には、本館施設として2機の望遠鏡（公開向け利用は20cm屈折のみ、50cm反射は小惑星観測等に利用している）展示スペース、体験型ソフトウェアMITAKA等を備え、地学資料館、プラネタリウム館を併設しています。月に1回は50cm反射望遠鏡も定例観望会のために公開され、一般の利用者に天体観望を堪能していただいています。

財団法人国際文化交友会は、国際的な天文および文化交流を進めることによって世界の平和と安寧の礎を築くことを理念としており、月光天文台はその天文教育を通じて、2000年から発展途上国より留学生を招へいするなど、人材の育成を目指しています。

さて、月光天文台が現在実施している主要な行事・イベントは、本館における企画展、日中の黒点観測、主要な惑星の観望期における臨時の観望会、定例観望会などです。また、2010年からは天文台職員によるギャラリートークも実施するよう



図1 月光天文台の第1・第2観測室ドーム。

になり、好評をいただいています。また、2009世界天文年の企画として、国際天文学連合総会における太陽系惑星の定義の決議（2006年夏）を反映した太陽系儀の模型組み立てを行い、2010年2月から本館2階にて展示するようになりました。

地学資料館では、化石・鉱物・銘石など1,000点以上の標本や恐竜骨格のレプリカを展示し、人類誕生以前の地球環境をわかりやすくとらえることができる施設となっています。

現在のプラネタリウム館は1996年6月に新設



図2 年間行事の一つ、七夕の夕べでの一コマ。

されたもので、定員 80 名のリクライニングシートを備える設備です。平日は 14 時からの 1 回、土日曜と祝日（休日振り替え日含む）には 14 時・16 時の 2 回投影があり、番組は年 4 回入れ替えをして、季節の見どころとなる天体やその時期の話題となる天文現象、科学的な解説を行っています。

月光天文台の目玉となるのは、目下『太陽・月・星のこよみ』（以下『こよみ』）と、年 2 回程度発行している解説書（小冊子）である、ととらえております。

『こよみ』の発行は 1976 年に始まり、以降毎年出版・販売をしております

また、『こよみ』の“顔”となる表紙図案には、その時期に注目を浴びた宇宙科学ミッションの画像データをご提供いただきました。2007 年版は小惑星イトカワに接近する『はやぶさ』探査機、2008 年版は太陽観測衛星『ひので』による太陽の初期観測画像、2009 年版は月探査機『かぐや』のハイビジョンカメラによる月面からの“地球の



図3 2010年8月21日開催の宇宙と天文の講演会の様子。

上 小惑星イトカワの模型に見入る参加者。
下 講師・吉川先生（右）と月光天文台元職員の大島氏。

出”の場面、2010 年版ではすばる望遠鏡による“ひまわり銀河(M63)”をそれぞれ採用し、表紙画像において“太陽・月・星”を表現できた次第です。これらの画像を利用したのは主に筆者の遊び心（と天文台職員の協力）によるものですが、同時にそのような優れた画像を使うことを可能にした宇宙科学ミッション、または観測成果が達成されたためであり、同時代人としての幸運にも恵まれたことにほかならず、関係者諸氏のご努力・ご尽力とご理解に深く感謝するところです。

2010 年発行の小冊子は、日本国内にある公開天文台やプラネタリウム館などを網羅した『「星空」体感・再発見—天文台を歩く』です。宝くじの普及・宣伝事業の一環として制作したもので、来館者には



図4 映画ロケ部隊の車両が乗り入れた天文台敷地。映画の収録は、リハーサルを含めて2日夕方から翌未明まで続けられた

無料で配布しています（これとは別に、有料の小冊子を発行している。『こよみ』の副読本、または理科教育用の教材としてご好評をいただいている）。

世界の特色あるこよみを展示する世界こよみ展は1995年から始まり、2009年4月には暦を提供いただいている国・地域の大使を招いてのこよみ展開会式典も開催しました。各国大使には記念にユリノキの植樹もお願いし、その木は当館の敷地にて成長を続けています。

月光天文台の創立50周年記念の年には間に合わなかったものの、翌年2008年夏から、宇宙と天文の講演会を開催するようになりました。

宇宙科学や天文分野で最新の研究や観測、開発に従事されている方をお招きし、選定されたテーマに沿った講演をいただく企画で、2008年8月にはJAXAの森田泰弘教授に固体ロケットM-Vとその後継ロケットについて、2009年からは5月と8月に2回の講演をプラネタリウム館にて行うようになっています。

5回目の開催では、6月13日に帰還した小惑星探査機『はやぶさ』の7年間の軌跡について、またその後継機となる『はやぶさ2』が目指す天体と小惑星の科学について、吉川 真准教授にお話いただくことになりました。

月光天文台は、北西に霊峰・富士を望む風光明

媚な場所にあります。映画のロケ（『僕の初恋をキミに捧ぐ』—東宝系—：2009年4月2日）実施当日には、天文台職員ですらめったに経験できない好天で、映画の収録が祝福されているかのようでした。

2011年以降も、月光天文台発行の『こよみ』や講演会、また各種企画行事などについて、ご期待いただければ幸いです。

財団法人国際文化交友会 月光天文台

電話：055-979-1428

Fax: 055-978-7601

Web サイト：<http://www.gekkou.or.jp/>

開館時間：9時～17時（入館は16時半まで）

入館料金：本館（地学資料館含む）

大人 ¥500 小人 ¥300

（団体：大人 ¥400 小人 ¥250）

プラネタリウム

大人 ¥400 小人 ¥200

（団体：大人 ¥350 小人 ¥150）

※20名以上のグループに団体料金を適用

（小人料金適用：小中学生、小学生未満は無料、ただし4歳未満はプラネタリウム館の入館をお断りしております）

定休日：木曜日（祝日の場合は翌日）。年末年始（12月26日～1月4日）。夏休み（8月）は全館無休。

プラネタリウム館は番組入れ替え期以外にも、臨時休館の場合があり、お問い合わせ下さい。

月光天文台へのアクセス：自家用車（駐車スペースあり）。最寄駅はJR東海道線「函南」駅。駅からはタクシーをご利用下さい（天文台行き路線バスはありません）。

定例観望会：月1回開催しています。参加料大人 ¥300 小人 ¥200（入館料無料）。事前予約制ですが、当日お越しいただいても結構です。

7月7日のみ全館無料開放（七夕の夕べ）のため、定例観望会はお休みとなります。

また、不定期開催の特別観望会（夕方開催）は ¥200/人で、日中の黒点観測等は入館料のみの適用です。